

平成30年度 事業報告

1. 総括

平成30年度は、当法人の基盤である「びっころ保育園」に加え、新たに「ぎんどろ保育園」が開園したことから保育園が2施設となり、地域に根差した活動による地域への貢献が今まで以上に期待できるようになりました。

今年で2年目を迎えた「花南わんぱく学童クラブ」は、新1年生が17名入所し、着実に入所者数が増加しており、次年度も入所希望の申し込みの状況から定員の40名を大きく上回る見通しとなりました。

また、近隣の北上市内にある工業団地に大規模工場が進出したことから、当学童クラブの学区内にある小学校では、生徒数の大幅増が見込まれており、それに伴う学童クラブの利用者増の対応として、行政及び地域の皆様から当学童クラブに対する期待が大きく、それに応えるためには体制作りが必要であることから、次年度以降に向けてその対応に取り組んで参ります。

当法人の基本方針に掲げた6つの方針が、一步一步ではあるが着実に実践できていると実感できた出来事として、待機児童対策の一環として小規模保育事業(定員19名で0歳児から2歳児)が実現したことです。

当事業の実施に当たり、昨今話題になっている保育士不足の課題を克服し、保育士資格を有する職員のみで、この1年充実した保育活動が出来たことは、評価の一つとして挙げられます。

もう一つの大きな活動の実績として挙げられることは、保育士不足の解消に向けて職員が一丸となり、保育士養成機関へ積極的に採用に向けた取組を行った結果、その成果として新卒者4名採用できたことも高く評価できると考えます。

次年度も同様に当法人の宣伝活動による人材確保の取り組みはもとより、今年度課題として積み残した事項について、施策を立てて積極的に対応することにより、一層地域に貢献できる様に取り組んで参ります。

<理念>

利用者の皆様、地域の皆様とともに

- 一 地域に根差した活動で信頼・愛される
- 一 夢と希望を語り合える開かれた
- 一 仕事に誇りと生き甲斐を持ち成長し続ける

社会福祉法人を目指します

<基本方針>

- 1) 経営の基盤づくりと安定を図り、継続的な事業の維持向上に努める
- 2) 利用者とその家族に寄り添い、質の高い福祉サービス提供と支援を行う
- 3) 関係機関と連携を密にして地域福祉の推進と向上に努める
- 4) 職員が働きやすい職場と風土の醸成とともに個々の能力が発揮できる人材を育成する
- 5) 開かれた法人として情報開示、情報提供を通じて透明性に努める
- 6) さらなる地域貢献に向け、新たな事業計画を策定し推進する

2. 法人の概要

(1) 法人名

社会福祉法人ちひろ会

(2) 所在地

岩手県花巻市諏訪町二丁目4番地7

電話番号 0198-29-5722 F A X 0198-29-5744

メールアドレス pikkorohoikuen@j-chihirokai.or.jp

ホームページアドレス <http://www.j-chihirokai.or.jp/>

(3) 認可年月日 平成 23 年 6 月 29 日 (岩手県指令地福第 266 号)

(4) 設立登記年月日 平成 23 年 7 月 1 日

(5) 法人が行う事業 第二種社会福祉事業

- ・ 保育所の経営
- ・ 一時預かり事業
- ・ 放課後児童健全育成事業 (学童クラブ)
- ・ 小規模保育事業

(6) 施設名称 ぴっころ保育園 利用定員 60 名 (平成 24 年 4 月 1 日事業開始)

花南わんぱく学童クラブ 利用定員 40 名 (平成 29 年 4 月 1 日事業開始)

ぎんどろ保育園 利用定員 19 名 (平成 30 年 5 月 1 日事業開始)

3. 役員状況

役職名	氏名	役員の資格(該当する欄に○)					現任期 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	備考
		学識 経験者	地域 福祉 関係者	施設長 等	その他	財務		
理事長	藤原 伸彦				○		平成29年6月16日 平成31年度定時 評議員会開催日	
理事	小原 清志		○				平成29年6月16日 平成31年度定時 評議員会開催日	
理事	小瀬川ちはる			○			平成29年6月16日 平成31年度定時 評議員会開催日	
理事	川村 妙子		○				平成29年6月16日 平成31年度定時 評議員会開催日	新任
理事	多田 徹男		○				平成29年6月16日 平成31年度定時 評議員会開催日	
理事	三井 信義	○					平成29年6月16日 平成31年度定時 評議員会開催日	
監事	小田島 剛三					○	平成29年6月16日 平成31年度定時 評議員会開催日	
監事	佐藤 洋子	○					平成29年6月16日 平成31年度定時 評議員会開催日	

定款上の定数 理事 6 名 監事 2 名

4. 理事会および評議員会の開催状況

開催年月日	出席者 /総数	議 題	欠席者氏名
第1回理事会 H30.4.6	6月6日	<決議事項> 1. ぎんどろ保育園「施設改装・改修工事」	
第2回理事会 (決算理事会) H30.5.23	6/6	<報告・承認事項> 1. 平成30年度のこれまでの主な事業実績について 2. 平成29年度勤労手当及び処遇改善手当の支給執行状況について <決議事項> 1. 平成29年度決算報告 2. 平成30年度1次補正予算案について 3. 定款の改正について 4. 規則・規程の改正及び規程の追加について 5. 評議員会の開催とその議案について	

定時評議員会 H29.6.16	6/7	<報告事項> 1. 平成29年度決算に係る内部監査結果について 2. 平成29年度事業報告について 3. 平成30年度の予算並びに事業計画について 4. 平成30年度のこれまでの主な事業実績について <決議事項> 1. 平成29年度決算報告について 2. 定款の改正について 3. 規程の改正について (役員等の報酬及び費用弁償の承認)	渡辺征彦
第3回理事会 H30.9.28	6/6	<報告事項> 1. 平成30年度指導監査の結果について <議決事項> 1. 県南広域振興局による指導監査(施設)結果の報告と指導監査指摘事項に対する是正改善内容(案)について 2. 平成30年度第2回補正予算(案)について	
第4回理事会 H31.3.18	6/6	<報告・承認事項> 1. 平成30年度これまでの主な事業実績について <議決事項> 1. 平成30年度第3回補正予算(案)について 2. 花南わんぱく学童クラブの定員増(案)について 3. 平成31年度事業計画(案)について 3. 平成31年度予算(案)について 4. 規程等の改正(案)について	

5. ぴっころ保育園の運営活動状況

<保育理念>

「一人ひとりが輝く」

<保育理念の要旨>

- 1) 園児とともに輝く (子供の尊厳を守り、自主性を伸ばす場を提供する)
 - ア 遊びの中で「健全な心と体」「考える力」を培い、園児同士「仲間作り」ができる環境と場を整備し実践する
 - イ 創意・工夫の豊かな子に育てる
- 2) 保護者とともに輝く (保護者との連携を密にし、子供の育成にあたる)
 - ア 保育園、家庭における保育を子どもの目線で豊かなものにするため、相互の信頼関係を築くために職員総意で力を注ぐ
 - イ 保護者と保育園、保護者同士の心を一つに、子どもの成長を共通の目標にし、保護者会との連携を密に園内行事等を通して助け合い、喜びを分かち合う
- 3) 地域とともに輝く (地域との連携を密にし、子供の育成にあたる)
 - ア 地域のニーズを把握し、施設として取組みが出来るところから一つひとつ実践する
 - イ 地域行政役員、各分野の代表者との交流を活発にし、地域の行事にも積極的に参加する
- 4) 職員一人ひとりが輝く (保育の仕事に誇りを持ち保育技術の向上に日々努める)
 - ア 人づくりを目標に「教育体制」「内外の研修」を具体的に構築整備し推進する
 - イ 職員の資質向上に向け、先ずは個々に自己評価等を踏まえ、自身の強み弱みを把握し、強みはより仕事に活かせるように、弱みは研修自己研鑽により強みに変える

<主な取り組みと成果>

- 1) 法人の理念、保育理念を全職員が理解し、それに沿って企画立案を行い推進する
当取り組みの成果として次の活動実績が挙げられます。
 - ① 地域コミュニティ等との交流を図る
 - ア 幼保小との交流会を定期的に行い、情報の交換及び共有を図ることができました。
 - イ 地域学区の保健委員会に年2回参加し、疾病に関する情報交換・共有等を行うことができました。
 - ② 地域の行事に参画する
 - ア 花南地区コミュニティセンター主催の文化祭に参加することができました。
 - イ 地区文化祭（諏訪地区、老人ホーム、南病院）に参加することができました。
 - ウ 諏訪神社のお祭りに、園児が神輿を担ぎ参加することができました。
 - ③ 夕涼み会等園内の行事に地域住民を招待する
 - ア 恒例になった夕涼み会、学童クラブと合同で開催し老人クラブ、卒園児等を招待して共に楽しむことができました。
 - イ 年に一度文化会館大ホールで開催の生活発表会に老人クラブの方々を招待し好評でした。
 - ウ みずき団子づくりも恒例となり、老人クラブの方々を招待し園児との交流を図ることができました。
 - ④ ハロウィン等積極的に地域に出向き交流を推進する
 - ア 今年度は以上児と未満児に分かれ、地域に出向き地域住民の皆様方との交流を図ることができました。
- 2) 新保育指針（平成30年4月施行）の運用開始に伴い、その内容を理解し保育に活かす
当保育指針は平成30年度が試行期間であり、県をはじめ市等行政機関主催の研修会に積極的に参加し、その内容を園内研修に活用することで、職員一人ひとりの研鑽に役立てることができ、保育活動にも活かすことができました。
- 3) 第三者評価（平成28年度受審）結果で浮き彫りになった事項で未達事項を対応する
 - ア 保護者及び地域交流時に、保育園で取り組んだイベント等に対するアンケートを行い、結果をまとめた上で閲覧板、園だより等で結果の報告を行いました。
 - イ 職員の振り返り、自己評価についても人事考課等により年2回実施し、評価すべき点、改善すべき点について職員ごとの対応を実施しました。
- 4) 法人内で施設間の連携を密にし、より一層地域への貢献を果たす
 - ア 毎週月曜日の定例会、園長・主任・副主任会議等で状況・情報の共有化を図ることでベクトル合わせが出来、日々の運用に活かすことが出来たことが、しいては地域貢献の一助に繋がりました。
 - イ 各施設のイベントに対する協力体制についてもスムーズな対応が出来たことで、職員の負荷軽減にも効果がありました。

(1) 入所定員・入所現員

年 齢	受入	0 歳児	1～2 歳児	3 歳児	4～5 歳児	合 計
定 員	種別	10 人	20 人	10 人	20 人	60 人
現員 (H30.4.1)	標準	8 人	19 人	11 人	22 人	60 人
	短時	2 人	2 人	2 人	0 人	6 人
	計	10 人	21 人	13 人	22 人	66 人
現員 (H31.3.31)	標準	11 人	18 人	11 人	22 人	62 人
	短時	1 人	3 人	2 人	0 人	6 人
	計	12 人	21 人	13 人	22 人	68 人

(2) 延長保育の実績

月	受入 日数	延べ人数
4	22 日	109 人
5	24 日	103 人
6	26 日	105 人
7	25 日	132 人
8	27 日	111 人
9	23 日	116 人

月	受入 日数	延べ人数
10	26 日	96 人
11	26 日	114 人
12	22 日	112 人
1	23 日	69 人
2	23 日	59 人
3	25 日	94 人

計 1,220 人

(3) 一時預かり保育の実績

月	受入 日数	延べ人数
4	日	人
5	13 日	18 人
6	15 日	32 人
7	10 日	18 人
8	16 日	23 人
9	9 日	14 人

月	受入 日数	延べ人数
10	8 日	14 人
11	19 日	26 人
12	12 日	18 人
1	9 日	13 人
2	9 日	15 人
3	16 日	31 人

計 222 人
前年実績 448 人
前年度比較 ▲226 人

(4) 職員の状況 (4月1日時点)

職 種	施設長 ・園長	副園長	主任保育士	常勤保育士	短時保育士	その他
人 数	1	1	1	16	0	1
職 種	事務長	事務員	看護師	栄養士	調理師	臨時調理師
人 数	1	1	0	1	1	1
合 計						25 名

(5) 地域との連携・交流状況

実施年月	実施内容	備考
平成30年7月	夕涼み会（盆踊り、出店、おやつ他）	地域の老若男女が参加
平成30年9月	運動会	〃 〃
平成30年9月	諏訪神社お祭りに参加（神輿）	
平成30年11月	花南地区文化祭に出品・出演	
平成30年12月	生活発表会	老人クラブをご招待
平成31年1月	みずき団子作り	〃 〃

(6) 苦情内容および解決結果状況

発生・解決日	内 容
該当なし	

6. 花南わんぱく学童クラブの運営活動状況

<支援の理念>

「一人ひとりが輝く」

- 1) 子供の尊厳を守り、自主性を伸ばす場を提供する
- 2) 保護者と地域の連携を密にし、子供の育成にあたる
- 3) 学校、地域との連携を密にし、子供の育成にあたる

<今年度の取組目標>

- 1) 運用開始2年目につき、1年目の経験を基に精度の高い運用と経営基盤の確立を目指す
- 2) 保護者と地域及び学校との連携を密にし、児童に関する情報等を共有し、相互に支援を行う
- 3) 学童施設の有効活用の方法について検討し、より有益な活用を実践する
- 4) 支援目標
 - ① 自主性を育む
 - ② 思いやりを育む
 - ③ 挨拶がきちんと出来る様にする

<主な取組と成果>

- 1) 開所2年目で新たに1年生が17名入所し、定員40名に対し通所が45名となり、定員を満たすまでとなりました。
- 2) 2年目を迎え、各児童とも1学年進級し、新たに新入生を迎えたことから、学童での生活環境が少し落ち着くかなとの思いがあったが、まだまだ期待の域まで達していないことから、次年度以降に向けて児童一人ひとりの個性を育んでいきたい。
- 3) 学童クラブを運用して感じた事は、学童クラブでは児童が学校及び家庭生活では表に出さない、その子一人ひとりの本当の姿が一番出る所ではないかなと感じることから、改めて学童クラブの役割の重要性を痛感し、子育て支援についての重要性を新たにしました。

- 4) 当学童クラブの特色である日々のおやつ(土曜日は除く)は厨房で造ったものを提供し、長期休み期間は給食を提供することが、保護者から好評で高い評価いただいている。
- 5) 長期休み期間中はイベントが盛りだくさんで、恒例となった温泉での水泳、ボランティアの方々の協力をいただいた花瓶の制作、お茶を楽しむ会、竹とんぼ作り、そして地域の3世代交流会、スイカ割大会に加えて、新たに縄文式土器の模様入り行燈の製作、水中生物の観察、身近な自然に親しむ会などだくさんのイベントを実施できました。
- 6) 児童ひとり一人の保育をその子に合った支援を行うために、小学校の担任の先生との情報共有、保護者の面談を進めて参りました。今後もそのフォローを継続して参ります。
- 7) 地域活動の連携については、地域のコミュニティを通して3世代交流、読み聞かせ等に積極的に参加して参りましたが、今後の課題として防災・防犯対応等については引き続き地域との連携が出来る様に進めたい。
- 8) 保護者との連携については、保護者会と一緒にあって、イベント対応をはじめ、まだまだ保護者との信頼関係構築が弱いことから、その課題をクリアするために、次年度はより充実した対応が出来る様に努めて参ります。

(1) 入所定員(40名)・入所現員

種 別	1年生		2年生以上		合 計
	男	女	男	女	
通 所	7人	10人	15人	13人	45人
一時預かり	0人	0人	4人	3人	11人
合 計	7人	10人	19人	16人	52人

2) 延長保育の実績

月	利用 日数	実人数
4	21日	15人
5	21日	18人
6	21日	16人
7	21日	20人
8	19日	21人
9	8日	19人

月	利用 日数	実人数
10	22日	20人
11	21日	20人
12	19日	22人
1	19日	22人
2	18日	17人
3	20日	23人

月平均利用人数 19.4人

(3) 一時預かり保育の実績

月	利用 日数	実人数	延べ人数
4	15日	10人	47人
5	1日	2人	2人
6	0日	0人	0人
7	16日	13人	56人
8	17日	13人	60人
9	14日	1人	14人

月	利用 日数	実人数	延べ人数
10	16日	1人	16人
11	15日	1人	15人
12	16日	12人	41人
1	17日	12人	52人
2	16日	2人	21人
3	12日	11人	31人

計 355人

(4) 職員の状況 (4月1日時点)

職 種	施設長 ・所長	次 長	主任支援員	支援員	支援員補助	その他
人 数	1	1	0	2	4	0
					合 計	8名

(5) 地域との連携・交流状況

実施年月	実施内容	備 考
平成30年7月	夕涼み会 (盆踊り、出店、おやつ他)	地域の老若男女が参加
平成30年8月	花南地区コミュニティ (三世代交流会)	〃 〃

(6) 苦情内容および解決結果状況

発生・解決日	内 容
該当なし	

7. ぎんどう保育園の運営活動状況

<保育理念>

「一人ひとりが輝く」

<保育理念の要旨>

- 1) 園児とともに輝く (子供の尊厳を守り、自主性を伸ばす場を提供する)
 - ア 遊びの中で「健全な心と体」「考える力」を培い、園児同士「仲間作り」ができる環境と場を整備し実践する
 - イ 創意・工夫の豊かな子に育てる
- 2) 保護者とともに輝く (保護者との連携を密にし、子供の育成にあたる)
 - ア 保育園、家庭における保育を子どもの目線で豊かなものにするため、相互の信頼関係を築くために職員総意で力を注ぐ
 - イ 保護者と保育園、保護者同士の心をつなぐ、子どもの成長を共通の目標にし、保護者会との連携を密に園内行事等を通して助け合い、喜びを分かち合う
- 3) 地域とともに輝く (地域との連携を密にし、子供の育成にあたる)
 - ア 地域のニーズを把握し、施設として取組みが出来るところから一つひとつ実践する
 - イ 地域行政役員、各分野の代表者との交流を活発にし、地域の行事にも積極的に参加する
- 4) 職員一人ひとりが輝く (保育の仕事に誇りを持ち保育技術の向上に日々努める)
 - ア 人づくりを目標に「教育体制」「内外の研修」を具体的に構築整備し推進する
 - イ 職員の資質向上に向け、まずは個々に自己評価等を踏まえ、自身の強み弱みを把握し、強みはより仕事に活かせるように、弱みは研修自己研鑽により強みに変える

<主な取り組みと成果>

- 1) 小規模保育園の運営基盤の確立について

- ① 園全体として年間保育の流れ、一日の遊びと職員の動きを確立する
 - ア 年間行事は、模索しながら予定外の行事を取り入れ、より充実した内容とすることができました。
 - イ 一日の遊びと職員の動きは、前半に職員の入れ替えが多く、試行錯誤の結果、全体での動きが確立できました。
 - ウ 次年度は、今年度の経験を踏まえ月齢ごとの保育を考慮し、新たな職員の動きと一日の遊びを考案していきたい。
 - ② 中長期計画に基づき具体化するために、ぴっころ保育園と連動し検討推進する
 - ア 経営及び運営方針に基づき施設で120%の入所を目指し職員配置及び児童の受け入れを行いました。
 - ③ 未満児保育に適した環境作りを進めるために、各クラスの月案「環境構成」を作成の上対応すると共に、リスクマネジメントを全職員で取り組む事により重大事故を予防する
 - ア 月案「環境構成」は毎月記入された内容を副主任、園長で確認を行いました。
 - イ リスクマネジメントは全職員と保護者が月間の目標を共有して活動したことが、重大事故の解消につながりました。
 - ④ 職員の育成を図る
 - ア 担当、役職ごとに必要なスキルを習得するために、各自研修計画を立て外部研修等に参加する
 - a 職員数の関係で調整が出来ず、計画した研修に参加できなこともありました。
 - b 次年度はスキルアップ研修を中心に役職研修にも参加できるように計画したい。
 - イ 第三者評価、新保育指針の学習会を年2回実施し保育の質向上を目指す
 - a 職員数の関係で学習会を開催することができなかった。
 - b 副主任以上は、新保育指針と第三者評価を参考に人事考課、自己評価のための項目について、その内容を十分理解した上で選定を行うことができました。
 - c 次年度は、職員が理解できるよう教育時間を設けて実施したい。
 - ウ 自己評価を年2回実施し、自らの振り返りと施設の自己評価に取り組む
 - a 自己評価は職員全員で取組、フィードバック面接を実施したことが、振り返りと意欲につながっている。
 - b 来年度は項目を一新し、より深い保育の理解と職務への振り返りを行い、資質向上を目指して行きたい。
 - ④ 広報活動を推進する
 - ア ホームページの内容を月1回以上の更新を行うことが出来た
来年度は、記載内容を検討し定期的に更新できるようにしたい
 - イ 地域の行事を把握し積極的に参加する
 - a 一年を通しどのような時期に何があるのかを把握出来ました。
 - b 来年度はさらに積極的に働き掛けを行きたい。
- 2) 法人職員情報の共有および職員の交流を推進
- ① 法人主催の定例会に参加すると共に園便りの交換を行う
 - ア 幹部会へは園長が毎回出席、給食会議には職員が交代で出席しました。
 - イ 園便りの交換できず、代替案としてHPで各園が公開する方向を提案行いたい。
 - ウ 研修案内、行事開催情報の共有化を図り漏れの無いようにする。
 - a 日々の変更や各行事の連絡など問題なく行えたが課題も残った。

b 来年度は定期的な連絡と事前の確認等方法や手段の検討が必要である。

② 職員の交流を推進する

ア 互助会を通し職員間の交流を図ること、また同好会などにより法人内の交流を深めることについては未達であり次年度で改めて取り組みたい。

(1) 入所定員・入所現員

年 歳	受入	0歳児	1～2歳児
定 員	種別	6人	13人
現員 (H30.5.1)	標準	3人	9人
	短時	2人	0人
	計	5人	9人
現員 (H31.3.31)	標準	7人	11人
	短時	0人	0人
	計	7人	11人

合計 18名 (3月末)

(2) 職員の状況 (5月1日時点)

職 種	施設長 ・園長	副園長	主任保育士	常勤保育士	短時保育士	その他
人 数	1	0	0	6	0	0
職 種	事務長	事務員	看護師	栄養士	調理師	臨時調理師
人 数	0	0	0	0	1	0
合 計						8名

(3) 地域との連携・交流状況

実施年月	実施内容	備 考
平成30年7月	夕涼み会 (盆踊り、出店、おやつ他)	地域の老若男女が参加
平成30年12月	生活発表会	ぴっころ保育園と合同 老人クラブをご招待

(4) 苦情内容および解決結果状況

発生・解決日	内 容
該当なし	